

学習指導改善調査事業

学習指導改善調査 協力校 十日町市立松代小学校の取組

協力校2年目の松代小学校です。以下の内容で今年度の取組を紹介します。

- 校内研修計画
- 11月に実施した6年生国語「パネルディスカッションをしよう」の公開授業指導案
- 学習指導改善調査の結果分析および課題に向けての実践紹介

平成28年度 松代小学校 校内研修計画

1 基本方針

- ・教育目標、年度の重点目標の達成を目指し、全教育活動を通して、「進んで表現し、互いに学び合う子」を育成する。
- ・児童の実態を正確に分析・把握し、より有効な教育活動を展開するために、職員の教科・領域・経営能力の向上を図る。
- ・職員間の共通理解をもとに、情報交換や協力体制を密にして、教育目標、重点目標の達成に取り組む。

2 研究主題

「進んで表現し、互いに学び合う子の育成」

3 昨年度の取組から

一昨年度より研究教科を国語に絞り、「聞き方」「話し方」「話し合い」の有効な手立てや課題を探り、研修を進めてきている。全校共通の学習スキルの定着を目指し、「学習の約束」「話し方」「聞き方」「声の大きさ」の掲示物を作成し、指導にあたったことで、どの学級でも「話し方」「聞き方」が意識され、自信をもって表現する姿が増え、一定の成果が上がった。しかし、自分の考えや気持ちを「相手に伝えたい」「聞いてほしい」という姿勢はまだ不十分であり、「主体的に表現する姿」や「互いに学び合う姿」について課題が残っている。

昨年度は、話し合いの手立てとして、以下のようにホワイトボードを活用し、その有効性を探ってきた。

○一人一枚の活用

- ・クイズの答えを書いて見せ合う。
- ・作文のメモや下書きに使う。
- ・図工の下絵を描く。
- ・ALTの先生や自分の顔を描く。
- ・漢字の練習

○グループでの活用

- ・グループで出た意見をまとめる。
- ・黒板にグループのホワイトボードを掲示し、全体で意見交換をする。

今年度は、「主体的に表現する姿」や「互いに学び合う姿」を目指し、ホワイトボードの有効活用をさらに追求しつつ、その他の方法についても探っていく。

4 目指す子ども像

- (1) しっかり聞く子 はきはきと話す子
- (2) 自分の考えを明確にし、進んで話し合う子

5 授業改善の方向（授業改善のポイント2016より）

- (1) ①「身に付けさせたい力」を明確にする。
②単元の構想を立てる。
- (2) 児童が学ぶ意味が分かるように授業を構想する。
- (3) 児童が自らの学びを確認できるようにまとめと振り返りを構想する。
- (4) 教師の振り返りを授業改善につなげる。

6 研究の方法

- (1) 授業研究について
 - ・「聞く」「話す」「話し合う」という表現の場面が多く見られる教科であること、全教科の基盤ともいえる資質を育てる学習内容であることから、研究教科は国語とする。児童の国語力の向上、教師の指導力の向上を目指し研究を進める。
- (2) 「学力向上プロジェクト計画」に基づいた内容について
 - ①表現力の向上
 - ・授業の挨拶や授業中の発言は、明るく大きな声で。「声のものさし」の意識を。
 - ・発表の場を可能な限り設ける。（国・音・総など）
 - ・音読練習の継続
 - ・朝会や行事での発表場面を大切にす。
 - ＊すべて相手意識を求め、ひとり言にならない。
 - ②基礎基本の定着
 - ・年間5回の国語力・算数力テスト（中学校の定期テストに合わせる。）
 - ・テストの範囲を10日前に提示・・・練習時間の確保
 - ・問題の精選や低位の子への支援を
問題範囲を狭くしたり、低位の子どもにはほぼ近い内容の練習プリントを特別に渡し、事前学習を進めたりするなど。
 - ・テスト結果への励まし・・・＊記録カードへの記入 励ましシール
 - ③Web 配信テストの予習復習
 - ・毎月のテストだけでなく、過去問題を積極的に活用する。
- (3) 家庭学習の習慣形成
 - ①学年×10分以上の学習時間
 - ②自主学習への意欲づけ（宿題の出し方・自主学習カード等の工夫）
 - ・効果を上げた方法を紹介し合い、共有し合う。（学期に1回）
 - ③家庭学習強調週間
 - ・中学校の定期テストに合わせて年5回実施。
 - ・カードによる点検を行い、学習・読書時間のデータより家庭での様子を把握する。
- (4) 授業のユニバーサルデザイン化
 - ①学習規律
 - ・学習の約束 話す聞くスキル 発言のルール
 - ・先生も守る 授業に遅れない。延ばさない。
 - ②教室掲示への配慮
 - ・教室前面に余計な情報を取り除く。
 - ・学級目標と「学習の約束」程度の掲示物で統一。
 - ③どの子にも分かる情報提供

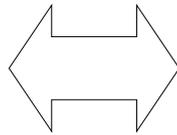
- ・見通しが見えるスケジュール提示
- ・具体的で短い指示 視覚的な手立て
- (5) NRT 全国学力調査 県学習改善調査 CRT の結果分析
- (6) 生活科・総合的な学習の時間の計画作成
 - ・年2回活動の様子を振り返り、レポート作成。
- (7) 授業改善
 - ・教科を国語とし、物語か説明文単元で、表現力向上に向けて研究授業を公開する。

<資料> 「学び合う」姿の共通理解

「互いに学び合う姿」とは、話し手と聞き手が主に言語活動を通じて考えを伝え合い、働きかけ、その結果互いの考えが深まったり見方が広がったりする姿を目指す。

話し手

- ・自分の考えを、言葉や図、表などを用いて相手に伝わるように表現する。
- ・自分の考えの根拠を筋道を立てて表現する。
- ・たとえや具体例を用いて分かりやすく表現する。



聞き手

- ・相手の言いたいことを分かろうとして聞く。
- ・分からないことについて聞いたり、相手の考えを聞き返したりする。
- ・相手と自分の考えの相違点や相手の考えの根拠はどこにあるか考える。

第6学年 国語科学習指導案

平成28年11月10日(木) 5限

指導者 教諭 樋口 洋一

活動場所 6年教室

- 1 単元名 新しい課題を見つけるために話し合おう
教材名 パネルディスカッションをしよう(7時間)

2 単元の目標

- テーマについて関心をもち、パネルディスカッションに参加しようとする。(関心)
- テーマに沿った提案を選んで、提案内容を深めるとともに、提案に必要な情報を取捨選択することができる。(話す・聞く)
- 話の構成を考えた資料を効果的に提示しながら、丁寧な言葉を使い、共通語で発表することができる。(話す・聞く)
- お互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことができる。(話す・聞く)
- 意図が伝わるには、また、より良い提案をするにはどうすればよいか、助言し合ったりしてまとめることができる。(話す・聞く)
- 敬語について、意識して使うことができる。(伝国)

3 児童の実態(男子10名、女子16名)

今年度行った全国学力・学習改善調査では、国語Aの平均正答率が全国は72.9%に対して本学級は83.2%と全国を上回った。しかし、国語Bの平均正答率が全国は57.8%に対して本学級は49.2%と全国を下回った。国語Bで特に全国に比べて正答率が低かったものは、「目的に応じて、質問したいことを整理する」、「質問の意図を捉える」であり、これは、「話すこと・聞くこと」の領域である。よって、本学級は「話すこと・聞くこと」が苦手であることが分かる。

話し合いの時には、自分たちで考えて話し合いを臨機応変に進めることが苦手であるが、司会・進行のマニュアルがあると話し合いをスムーズに進めることができる児童が多い。自分の意見を発表できるのは特定の児童しかおらず、全員からの意見を出すには、事前に考える時間を与える必要がある。また、自分だけでは考えることが苦手な児童もおり、そういった児童に対してはグループや隣同士でアドバイスし合ったりする手立てをとってきた。

4 単元について

本単元の教材「パネルディスカッションをしよう」は、「パネルディスカッション」という話し合いの形態を取り上げ、テーマについて、計画的に話し合い、見方・考え方を深めることをねらいとしている。普段の話し合いとは趣が異なるだけに、有益な話し合いの場にするためには、計画的な準備が必要である。

教材の構成は、「1 提案理由をはっきりさせ、内容を深め、ディスカッションに備えよう」「2 パネリストと司会を決めて、準備を進めよう」「3 資料を作ろう」「4 パネルディスカッションをしよう」の四つである。

本単元の中でも最も重点がかかるのは、パネルディスカッションの場であることはもちろんだが、そのための準備にも十分に力を注ぎたい。パネルディスカッションは、互いに異なる立場の考えのパネリストの提案とパネリスト同士の意見交換が展開され、その提案や意見交換の内容に触発されて、さらに、フロアを交えた意見交換が活発になる。そのためにも、どのような提案をするか、問題として最もクローズアップしたいのはどこなのかなど、できる限り具体化しておくことが必要である。

5 研究主題との関わり

進んで発表し、互いに学び合う子の育成

<目指す子どもの姿>

しっかり聞く子 はきはき話す子
自分の考えを明確にし、進んで話し合う子

<具体的な方策>

- (1) 児童にとって魅力的なテーマの提示
- (2) 教科書を話し合いのマニュアルとして使う
- (3) ホワイトボードの活用

○本单元における提案

(1) 児童にとって魅力的なテーマの提示

教科書では、児童に考えさせてテーマを決めていくという流れである。しかし、児童同士の話し合いで、(いろいろな立場から意見が出せるか)、(資料が用意しやすいか)、(パネルディスカッションをして、前より考えが深まるか)という条件を満たすテーマを決めさせるのは難しいと考える。したがって、意欲的に話し合いが出来るように、児童にとって魅力的なテーマを教師から提案する必要がある。

そこで、「東京の人に松代の良さをアピールするために、松代の何をアピールすればよいのか」というテーマにした。これは、本学級の児童が、9月に東京に修学旅行に行ってきた時に、松代の良さを改めて実感することが出来たからである。また最終的には、松代を実際にアピールできる立場にある方をパネルディスカッションのゲストに呼ぶことにした。このようにパネルディスカッションの場にゲストを呼ぶ活動を取り入れることによって、自分たちの話し合いが実際に松代のアピールに繋がるということが児童にとって魅力的な話し合いになると考えた。

(2) 教科書を話し合いのマニュアルとして使う

本学級は、臨機応変に話し合いを行うことが苦手な児童が多い。そこで、教科書を話し合いのマニュアルとして使用する。話し合いの前に教科書の例を見せることによって、どのように話し合いを進めていったり、どのように意見をまとめたりすれば良いのかを理解させたい。

(3) ホワイトボードの活用

グループで話し合いをし、考えをまとめる時には、気軽に書いたり消したりできるホワイトボードが有効であると考え。付け足しをしたり、余計な部分を削ったりするのに時間がかからず、その分話し合いに時間を費やすことができる。また、グループ全員が見ることができる大きさであるため、お互いに意見を共有できるという点でも有効であると考え。

6 指導の計画 (全7時間 本時3/7)

| 次 | 時 | 主な学習活動 | ◎評価 |
|---|---|----------------------------------|---|
| 1 | 1 | ・パネルディスカッションについて理解する。 | ◎パネルディスカッションについて理解している。(ノート) |
| | 2 | ・テーマについて、自分だったら何を提案するか理由を添えて考える。 | ◎テーマについて、自分だったら何を提案するか理由を添えて考えて、ワークシートに書いている。(ワークシート) |

| | | | |
|---|--------|---|--|
| | 3 (本時) | ・意見が似ている者同士や意見が異なる者同士でグループを作り、提案内容やその理由を話し合う。 | ◎意見が似ている者同士や意見が異なる者同士でグループを構成し、グループで話し合っ提案内容やその理由を具体的にまとめている。(発表、ホワイトボード、ワークシート) |
| 2 | 4 | ・提示資料、発表方法について話し合う。 | ◎提示資料・発表方法について話し合い、パネルディスカッションの準備をしている。(発表、ワークシート) |
| | 5 | ・パネルディスカッションに向けた資料を作ったり、質問や意見を考えたりする。 | ◎パネルディスカッションに向けて資料を作ったり、質問や意見を考えたりして準備をしている。(発表、資料) |
| 3 | 6 | ・パネルディスカッションを行い、自分の考えを表現したり、友達の考えに関心をもって聞いたりする。 | ◎パネルディスカッションを行い、自分の考えを表現したり、友達の意見に関心をもって聞いたりしている。(発表、ワークシート) |
| | 7 | ・パネルディスカッションを振り返り、成果や課題・感想などを話し合い、互いの良さを認め合う。 | ◎パネルディスカッションを振り返り、成果や課題・感想などを話し合い、互いの良さを認め合っている。 |

7 本時の学習

(1) ねらい

- ・意見が似ている者同士や意見が異なる者同士でグループを構成し、グループで話し合っ提案内容やその理由を具体的にまとめている。

(2) 本時の構想

① 本時の課題解決の例の提示

本学級の児童は、「質問の意図を捉える」ことが苦手である。そのため、本時の課題を捉えることも例を使って説明することが必要である。そこで、ホワイトボードの使い方を説明する時に、本時の課題に対して、どのように解決すればよいのかを例を使って説明する。

② 教科書を話し合いのマニュアルとして使う

話し合いをスムーズに行うことが出来るように、授業の最初に教科書をマニュアルとして使い、話し合い方を復習する。また、話し合いの最中にどうやって話したり、まとめたりすればよいかを思い出せるように、教科書をいつでも読んでいいことにする。

③ ホワイトボードの活用

話し合い活動の時には、一つの意見につき一枚のホワイトボードを使うことにする。また、まとめた提案内容がグループの誰でも見る事が出来る場所に置けるようにする。そうすることで、まとめた意見を確認することができる。

(3) 展開

| | | |
|----|--------------|--------------|
| 時間 | ○学習活動 ・児童の反応 | ・留意点 ◎支援 ◇評価 |
|----|--------------|--------------|

| | | |
|-------------------|---|---|
| <p>導入 10分</p> | <p>○本時の課題をつかむ。</p> <p>課題 グループで話し合い、提案内容やその理由を具体的にまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕たちは、「松代の食べ物」をアピールするグループだね。 ・私たちのグループは、「松代の大地の芸術祭の作品」をアピールするグループだよ。 ・私たちのグループは、「松代で行われている行事や祭り」をアピールするグループだよ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に自分の考えを書いたワークシートを用意させておく。 ◎少数意見の子に対しては、同じような意見同士のグループが作れないので、意見が異なる同士のグループも作る。 ・ホワイトボードの使い方を説明する時に、本時の課題に対して、どのように解決すればよいのかを例を使って説明する。 ・話し合いのポイントは提案内容や理由が具体的であることと、良さであるかどうかを考えることを伝える。 ・教科書を読み、どのように話し合えばいいかを確認する。（◎拡大コピーも黒板に貼る。） ◎司会者には、話し合いが教科書の流れでない時の進行の仕方の手引きを渡しておく。 ・提案内容をまとめるためのホワイトボードを各グループに配付する。 |
| <p>展開 25分</p> | <p>○グループ内で話し合い、提案内容をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕たちの提案内容の中心は「松代の食べ物」だけど、どんな食べ物をアピールしたほうがいいのかと思う？ ・私は、「お米」をアピールしたいなあ。だって、東京でご飯を食べたときには、松代のお米っておいしいなあって感じたもん。 ・そうだよ。僕も「お米」は松代でいつも食べている「お米」の方がおいしいって思ったよ。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎一部の児童の発言だけで話し合いが進むことがなく、どの子にも発言の機会がもてるように、進行役の児童に声をかけるなどの助言をしていく。 ◇進んで提案内容や理由を具体的にまとめようと話している。（話し合いの様子） |
| <p>終末 10分</p> | <p>○本時を振り返り、学習のまとめをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◎ワークシートに本時の反省を書かせる。 ◇自分のグループの提案内容やその理由を具体的にまとめることができる。（ワークシート） |

学力改善調査結果分析

《国語》

- 4年
- ・敬体で書かれた文章中にある常体の一文を見つけ出すことができない。また、「文」の意味を正確に捉えておらず、句読点や接続語を抜かしたり、一部分のみを書いたりしていた。
 - ・時間内に指定された文字数で書くことができない。そのため、問い⑩～⑫は採点基準に達することができず無答率が高くなった。
- 5年
- ・本文の内容を読み取り、それにあつた資料を正しく選ぶことができない。
 - ・制限時間内に指定された文字数で書くことができない。そのため、⑥～⑪は無問扱いになり、極めて正答率が低くなった。まずは、350字程度の文章を書く力を付けることが重要課題。
- 6年
- ・資料を読み取る力は付いてきているが、「事実」と「考え」の区別が付いていない児童がいる。
 - ・資料から事実を見つけて書くことができるが、それらを踏まえて自分の「考え」をもち、説明文として文章に書くことができていない。

《算数》

- 4年
- ・図を見て、乗数を十の位と一の位に分けて式に表すことが理解できていない。図と式の関係性を捉えさせる必要がある。
 - ・箱の「縦の長さ」と「高さ」の理解が不十分。無問も目立った。
 - ・誤答の理由を説明する問題で無答が多い。日頃から自分の考えを説明する活動を充実させることが大切である。
- 5年
- ・帯分数のひき算の方法について理解していない。整数部分から1繰り下げる方法を理解していないため、何を答えてよいか分からない。計算方法を言葉や数を用いて説明する力を付けることが大切である。
- 6年
- ・全体的に割合の学習が定着していない。割合の問題では正しく立式できない児童が多かった。また、割引きの場合についても理解が不十分であり、繰り返し復習が必要。

《理科》

- 4年
- ・棒グラフを読み取って図と照らし合わせて考えることができない。
 - ・データを基にして説明する力が不足している。
 - ・虫めがねの正しい使い方を理解していない。
- 5年
- ・電気のはたらきはよく理解していた。
 - ・体のつくりと動きを説明するのに、指定された言葉を使って説明することができない。言葉を正しく使って文章を書く力を付けることが大切。
 - ・9時以降の月の動きを予想し、根拠をあげて説明することができない。
- 6年
- ・全体的によく理解していた。
 - ・実験の条件をそろえる問題では、2つ必要なところ1つの条件しか書いていない児童が多かった。

今年度、重点的に指導すること

- 350字程度の文を時間内で書ききる力をつけること。(始め-中-終わりの構成を意識して。)
- 理由を明確にして、自分の考えを説明したり書いたりする力をつけること。(国語だけでなく、算数や理科においても取り組む。)

【4年：国語】

4年生は、自分の根拠をあげて自分の考えを説明することが苦手な児童が多い。そこで、ホワイトボードを用いて話し合い活動を充実させ、友達と意見交流をしたり全体の前で説明したりすることで自分の考えを明らかにする授業を実践してきた。



友達の意見を聞いた後、さらに自分の考えを明らかにするために下記のプリントを用いて自分の考えの根拠を書くようにした。

| | | | | |
|----------|---|---|--------------|----------|
| | ② | ① | | |
| という考えから、 | | | このように思ったわけは、 | |
| になりました。 | | | と思います。 | |
| | | | 今は、（ | はじめは、ごんが |
| | | | ）班の意見を聞いて、 | |
| | | | | と思いました。 |

このプリントの形式は、理科の実験でも取り入れている。実験の結果から分かったことやその根拠を説明する際に、このパターンで説明するようにしてきた。国語だけでなく他教科でも応用し、説明する場を積み重ねることで、理論的な話し方が身に付くと考える。